

山形県高次脳機能障がい者支援センターのご案内

高次脳機能障がいとは①血管が切れたり、詰まったりする脳卒中や、②交通事故などにより脳が傷つけられたり、圧迫されたりする脳外傷、③脳が炎症を起こしたり、酸素が不足する脳炎や脳症などにより、脳が損傷し、言葉や記憶、計算、行為、空間認知など複雑な脳の機能に障がいが生じることです。社会生活への適応が困難となる障がいですが、その多くが退院後などに確認されます。また、手足の麻痺などと違い、一見どこも悪くないように見えるため、気づかれにくい場合が多く、本人の障がいの認識も薄いのが特徴です。

こんな方が周囲にいませんか？



「もしかして高次脳機能障がいかも・・・」と思ったら

お気軽に**山形県高次脳機能障がい者支援センター**をご利用ください。

☆まずはお電話やメールでご連絡ください。

コーディネーター(社会福祉士)がお話をお伺いします。

☆相談は無料です。

きちんとお話を伺うため、来所相談は原則予約制とさせていただきます。

【お問い合わせ先】

山形県高次脳機能障がい者支援センター

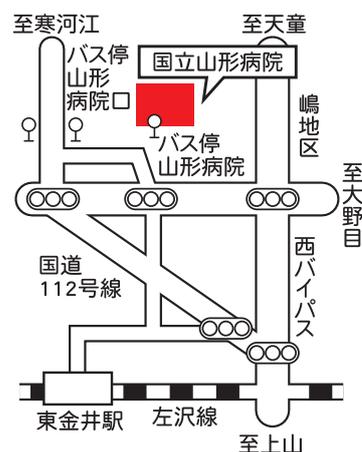
月～金(祝日は除きます) 8:30～17:00

TEL:023-681-3394 FAX:023-681-3134

E-mail:koujinou1@bz03.plala.or.jp

〒990-0876 山形県山形市行才126番地2

独立行政法人国立病院機構山形病院内



ご挨拶

10年目を迎えて

山形大学医学部内科学第三講座神経学分野 教授
山形県高次脳機能障がい者支援センター 顧問
鈴木 匡子



山形県の委託事業として高次脳機能障がい者支援センターが開所してから10年目を迎えました。この間、センター長を中心に多くの方々の努力により、高次脳機能障害は少しずつ見える障害になってきました。すなわち、「高次脳機能障害ってなに？」という状態から、高次脳機能障害が認識され、適切な対応を受けられる状況に変わりつつあります。

高次脳機能障害は、脳の病気やケガにより生じます。脳の一部が損傷することにより、言語、記憶、情動など様々な認知・行動が障害されるのです。脳のどの部分が障害されるかによって、症状は異なります。たとえば、言語だけが障害される方もいれば、記憶と情動の両方が障害される方もいるわけです。ですから、脳にある程度以上の損傷があった場合は、後遺症として高次脳機能障害があるか、あるとすると、どのような高次脳機能障害かを診断します。高次脳機能障害の中味が分かったら、それに対して医療としての治療、福祉としての対応をどうしていくかを考えます。このような一連のプロセスをお手伝いするのが、高次脳機能障がい者支援センターです。

当センターでは、まず高次脳機能障害を正しく理解していただくために、講演会などを通して啓蒙活動を行っています。また、高次脳機能障害に対する相談事業を行い、診察が必要な方は高次脳機能障害の外来受診に結びつけ、福祉制度の活用を要する方には各種制度の案内をします。平成22年には通所施設の「暁才」を開設し、それぞれの方の高次脳機能障害に合わせた訓練を行っています。さらに、障害の特徴や生活環境など種々の条件を見極めたうえで、就労に結びつく作業所などへの橋渡しを行います。

このような取り組みは、全国的にみても先進的なものと考えられます。社会全体の障害者に対する認識も徐々に変わってきている現在、高次脳機能障がい者がそれぞれの持てる力を発揮できるように、当センターを中心に関連各機関と協力して、今後とも活動を続けていきたいと思っております。

みなさんと一緒に歩む

山形県高次脳機能障がい者支援センター センター長
国立病院機構山形病院 リハビリテーション科部長
リハビリテーション科専門医 豊岡志保



山形県高次脳機能障がい者支援センターでは、事故や脳卒中の後遺症などによる高次脳機能障がい者の生活を支援しています。一人一人の方の能力や背景は異なりますので、相談を受けて、センターだけで解決できることは多くなく、社会参加のためには行政や他の事業所との協働が必要です。現在では、急性期病院に入院中から相談を受けて、地域の事業所や、復職への支援を開始することも増えています。

昨年、高知で行われた日本脳外傷友の会全国大会に参加しました。その中で、両親の高齢化に伴って高次脳機能障がい者が一人になった時の生活を支えるシステムがないという問題が指摘されました。山形県でもセンター開所から10年目を迎え、当事者の合併症や、家族の高齢化など環境の変化があり、その時に必要な支援、例えばグループホームや集合住宅などを考えなければならない時が来ています。

もう一つの課題としては、県内の地域格差です。相談や作業を行う事業所や医療機関は村山保健医療圏域に集中しています。公共の交通機関が少ない地域では自動車運転以外の移動手段が確保されていないため、就労の場所が限られることとなります。そこで、センターでは相談事業として、最上、置賜圏域の事業所と協力して巡回相談や就労支援機関とのケースカンファレンスを行っています。遠方の方でも、利用できる相談の機会をぜひご利用ください。

山形大学医学部附属病院からの全面的な協力をうけて、専門的な診断評価だけではなく、見えない障害といわれる高次脳機能障害の正しい知識や対応、リハビリテーションについての研修会を定期的で開催しています。今後も地域と連携して、障害があってもより良い生活が送られるようにサポートしてまいりますのでよろしく願いいたします。

高次脳機能障がい の主な症状と対応のヒント

記憶障害

- ☆こんな症状ありませんか？
- 同じことを繰り返し質問する
 - 忘れた部分のつじつまを合わせようと作り話をする
 - 忘れ物が多い 物をなくしやすい
 - パソコンの操作手順が覚えられない
 - 起こったことは大まかに覚えているが、間違っ
て記憶して訂正が難しい

☆対応のヒント

- 「作り話」は、記憶の取り違えの
場合があります
会社、作業所で作話があることを
情報共有し、家族や指導者に
確認しましょう
明らかに作り話である場合は
軽く流して、他の話題へ変換
しましょう
- 手順を一定化しましょう
置く場所を決めたり、わかり
やすく明示しましょう
- カレンダー、張り紙などで
視覚化しましょう
- メモの活用も有効です



注意障害

- ☆こんな症状ありませんか？
- 集中できない
 - あくびをよくする
 - 雑音や周囲のものに気をとられる
 - あきっぽい
 - 1つのことが解決しないと先に進めない

☆対応のヒント

- 注意をそらすものを減らしまし
ょう(例えば、食事は1人でとる、
カーテンを引く、席を一番前
にするなど)
改善してきたら、メモやタイ
マーを利用して注意を促しま
しょう
- 休憩をこまめにいれましょ
う
- 仕事の量を減らしましょ
う 本人の「大丈夫」は大丈夫
でないことがあります



遂行機能障害

- ☆こんな症状ありませんか？
- 自分で計画を立てられない
 - 段取りが悪い
 - 優先順位がつけられない
 - 臨機応変に行動することができない

☆対応のヒント

- 急な変更に対応ができないので、
連絡先等を明示し、相談する
人を決めましょう
- 選択肢を減らしましょう
- 「適当に」は難しいので、基
準を作りましょう



病識の低下

- ☆こんな症状ありませんか？
- リハビリテーションは必要ない
と思っている
 - 自分の障害に気づくことが
出来ない

☆対応のヒント

- 生活の中での失敗をフィード
バックしましょう(時間をおか
ないのがポイントです)
- 自分が以前とは違うことに
気づききっかけを作りましょ
う

社会的行動障害

社会に出て本当に
困るのはこれ！

① 退行・依存性

☆こんな症状ありませんか？

- 子どもっぽい行動をする

☆対応のヒント

- 「らしさ・立場」を大切にしましょう
子どもっぽい行動には、社会人としての自覚を促します

② 感情のコントロール低下

☆こんな症状ありませんか？

- 突然怒ったり、興奮したりする

☆対応のヒント

- 本人の自覚があるようなら反省の手順を決め、気持ちの切り替えが出来るように
しましょう
反社会的な行動には一貫した対応をしましょう
支援者はチームで対応しましょう



③ マイルール

☆こんな症状ありませんか？

- マナー違反・ルール違反に対して、周りの状況や自分の立場をわきまえずに自ら注意せずにはいられない
- 自分の非は認めず、相手を攻撃する

☆対応のヒント

- トラブルを避けるような配慮をしましょう
その場に行かせないことも有効です

④ コミュニケーション能力の低下

☆こんな症状ありませんか？

- 周囲の雰囲気を感じることができない
- 相手を思いやることが出来ない

☆対応のヒント

- 周囲の雰囲気を言葉で伝えましょう
- あいまいな言い回しはトラブルの元になります
- 家族や職場と情報共有をして、対応を一定化しましょう



⑤ こだわりが強い

☆こんな症状ありませんか？

- 些細なことにこだわる
- いつまでも同じことを話したり、おこなったりする

☆対応のヒント

- ルール作りをしましょう
「禁止」ではなく「減らす」ようにしましょう
- 不安がベースにある時には専門医への相談も有効です